

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100392		
法人名	株式会社 優輪		
事業所名	グループホームよしえの郷	一階	
所在地	釧路市春採6-4-24		
自己評価作成日	平成27年2月28日	評価結果市町村受理日	平成27年5月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.keigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyosyoCd=0194100392-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春採湖を眼下にする高台で、静かな住宅地に立地した2ユニット2階建ての建物となっています。「のんびり本人らしく生き活き」という理念を掲げて、家庭的でアットホームなグループホームです。入居者様の事を第一に考え、最期まで本人らしく生き活きと暮らして頂ける様に日々努力しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成27年3月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は平成26年4月に経営が新体制になった。
 1、地域との交流は、町内会の夏祭り、盆踊りに参加して交流し、事業所の夏祭りに地域住民が参加、運営推進会議や避難訓練に参加協力を得て馴染みの関係が出来てきた。
 2、利用者は年々高齢化してきたが、できるだけ戸外に出かけられる様な工夫をして支援に取り組んでいる。
 3、現在看取り介護中1名がおり、医師、訪問看護師と連携をして職員は支援に取り組んでいる。
 4、事業所は家庭的な雰囲気の中で、のんびりと笑顔で過ごせる様に寄り添い、見守っている。職員自身や利用者の家族が入居したいと思う事業所を目指して取り組んでいる。
 5、共同空間は広いスペースで開放感があり、ソファでゆったりして、それぞれ寛いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、少しでも多く実践できる様に努力している。	理念「のんびり、本人らしく、活き活きと」を掲示して、会議で確認し、管理者と職員は共有をしケアに繋げている。	平成26年4月から経営が新体制になり、現状に沿って地域密着型サービスをふまえた理念を新たに作成することを期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや盆踊りに参加し、ホームでの夏祭りに参加して頂いているが、日常的な交流とまではいたっていない	町内会の夏祭り、盆踊りに参加し、事業所の夏祭りの焼肉パーティーには町内会の人々の参加もあり、和太鼓演奏を近隣の人が見に来たり、運営推進会議に町内会会長が参加して、地域とのつながりができて来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社長が認知症サポーター養成講座の講師となり、認知症の理解を地域の方に発信している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告や行事、取組みについて報告。町内会会長、婦人部長、ケアマネージャー、ご家族様と話し合いを行いサービス向上に活かしている。	2ヶ月毎に地区会館で町内会会長、地域包括支援センター職員、家族等の参加で開催している。事業所の行事報告、近況報告をして、意見や話し合った事を議事録に記録し、家族へ報告をして、その取り組みをサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告、体制変更時、わからない事がある時は連絡をとり、色々と教えて頂いている。	管理者が報告事項の説明に行き、体制変更の相談や助言を受け、市担当者との連携を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間以外はしていない。スピーチロックにも配慮し、常に拘束をしないケアを徹底している。	全体会議で身体拘束についてのケアの取り組みを話し合い、各ユニットの主任がフロアの職員の日常的な声かけや接遇に気を配り指導している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ機会はなかったが、職員同士で情報交換をして防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はなかったが、必要と思われる方にはサービスの説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時には十分に説明を行い理解、納得を得る努力をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は都度職員皆で話し合い共有している。苦情ボックスを設置している。	日常の会話から利用者の意見、要望の把握に努め、家族が来訪した時や、電話連絡のときに家族の意見や要望を聞き、また運営推進会議の中で家族からの意向、要望を検討して運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ゆっくりと聞く機会を設ける事が出来なかった。	管理者は全体会議や個人面談で職員の意見、提案を聞き、運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働ける環境、条件に当てはまらない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加は希望者は参加できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会がなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族様からよく話を聞き、職員同士でも情報を共有しより良い信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の際には、困っている事、不安な事、要望を聞き、その後も都度話し合いをして関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの中で使えるサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で喜怒哀楽を共にし、食事の準備や片づけなど無理のない範囲で出来る事はして頂いている。職員が人生の先輩である利用者から教えてもらうこともあり、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に協力してもらえることをお願いし、ご家族がご本人にしてあげたくても出来ない事を職員が代わりにしたりして、本人を共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がいつでも遊びに来て下さったり、馴染みだった場所に時々は連れて行ってあげたりと馴染みの関係が継続できるように支援している。	お正月に家族の家やホテルで過ごす人や、家族と外食に行く人や、友人が訪問に来たり、友人の見舞いに行く人もいます。馴染みの理容室、美容室へ行くなど、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に関係を把握し、職員が仲介に入り、支え合えるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までに前例がない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や常時希望、意向を聞いている。また、困難な場合はご家族にお聞きし、その人らしく生活ができるよう支援している。	入居時に、本人や家族から意向や希望を聞き、日常の会話や接遇で把握して、職員に周知している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族から出来るだけ多く情報を集めて少しでも多く把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿って一日の過ごし方を考えている。また、心身の状態がいつもと違うような時には別紙に記録をとり状態を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の想いを大切に、職員皆で話し合い介護計画を作成しているが、ご家族様からの意見はあまり聞かれていない。	入居時にケアについて、本人や家族から意見を聞き、管理者、主任、ケアマネージャーと話し合い、介護計画書を作成し、本人、家族の確認を得ている。状況が変化した時は計画の見直しをして、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りで情報を共有。また会議にて話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて色々なサービスを検討し、モニタリング、アセスメントをしてプランの変更をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限り安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望に添って、かかりつけ医による適切な医療を受けている。	入居時の主治医に継続受診している。家族同行が出来ない時は職員が同行し支援している。協力医と訪問看護師の適切な受診支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回、訪問看護師に来て頂きアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	都度情報収集を行い、かかりつけ医と連携し早期退院や良好な関係作りが出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会議にて職員間で方針を共有している。段階に合わせてご家族様、主治医、管理者で話し合いを行い方針を共有している。	契約時に重度化や終末期について、事業所の方針を説明し同意と確認印を得ている。状況の変化に合わせて、家族、主治医、ケアマネージャー、管理者と話し合い、方針を共有し、連携を密にして支援に取り組む体制が出来ている。現在看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の回数を増やし、訓練は抜き打ちでレベルアップを図っている段階。町内にも協力して頂ける様声をかけている。	年2回の避難訓練では、町内会に利用者の見守りで協力を得ている。総合防災の指導で消防署へ電話のかけ方、通報マニュアル、消火マニュアルの講習を受け、職員が実践出来るようにしている。米、水、缶詰、職員用長靴などを備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れが出ている部分もあったが、羞恥心やプライドを損ねない様支援は心掛けている。	全体会議や申し送り伝達で人格の尊重やプライバシーを損ねない支援を話し合い、トイレ誘導時の声かけや接遇について周知し、対応している。日誌等の書類は事務所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定出来るよう、やる気が出てくるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく一人一人のペースを大切にした対応をし、希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活歴や関わりを参考に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のペースに合わせ準備、片づけをしている。食事内容も個々に合わせ刻み食とし、食べたいものの希望は数日中に叶える様にしている。	職員と食材の買い物に行き、メニューは利用者のリクエストを叶えている。年中行事の食事を取り入れて、季節感が味わえるように工夫をしている。出来る方は調理の手伝いや後片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない方は栄養補助品等で補い水分量が確保できる様人によっては水分、排泄表を活用し水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、介助にておこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方は排泄表をつけ自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表で一人ひとりを把握して、トイレ誘導をし、自立排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防に取り組んでいるが、それでも便秘がちな方には個々にあった下剤、整腸剤にて便秘にならない様調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望、タイミングに合わせて入浴を楽しめる支援をしている。	基本は週2回としているが、好きな人は毎日入浴している。体調やタイミングに合わせて時間を決めずに好みに合わせての入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援をしている	個々の生活習慣や、その日その時の心身の状態を把握する事で、安眠や休息に繋がる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時は服用薬品名カードを必ずファイルし、職員みんなが目を通し理解して、症状の変化にもすぐに対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力、生活歴、またご本人から希望を聞く等して、ひとりひとりの楽しみや気分転換の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化の為、希望がほとんどないが、ご本人の状態を出掛けるよう支援している。	戸外に出かけられる人は買い物やドライブがてら農園作業や初詣、海を見に行ったり、会館で行う事業所の運営推進会議へ参加している。	外出が難しい人も、状態に合わせて参加できる外出支援を期待する。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで満足を得、安心されることもある。ご家族とも話し合い、個々の能力に応じて買い物の際に使えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との電話の希望があれば都度電話で会話してもらい、安心して頂いている。また、ご家族からもご本人への電話は自由につないでいる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花や飾りつけをしたり、混乱を招く事のない様に配慮している。	居間、食堂、台所は広いスペースでカウンターの仕切りが無く、動きやすいように工夫をしている。居間に、行事を思い起こせるように写真を掲示して、楽しんでもらっている。日にち・曜日が分かりやすい大きな手作りカレンダーを掛け、季節の特徴を書き話題にして、見当識の保持に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を置き、そこでくつろがれたり、ソファーや自室と個々が思い思いの場所にくつろがれている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は馴染の物品を置き、その都度ご本人、ご家族様と相談しながら安心出来る様に工夫している。	使い慣れた品を置き、家族の写真や仏壇を置き、家族との結びつきを保つ環境になるように工夫して、穏やかに安心して過ごせる配慮をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけたり、貼り紙をしたりと工夫している。			